

外来診察

脳と心のドック

予約制

認知症・うつ病の鑑別診断

アルツハイマー型認知症・血管性認知症・うつ病・双極性障害・統合失調症など

外来診察のひとつとして鑑別診断を行います。
保険適用

物忘れの原因は、けして認知症のみとは限りません。

- 最近、ものをよく忘れるようになり「私は呆けているのではないか」と感じる高齢者ご本人やご家族の方。それは認知症（呆け）かも知れませんが、実はうつ病でも似た状態が現れます。
- うつ病などは殆どの場合お薬で改善できます。その鑑別を行うのがこのドックの主たる目的です。当院では同様の症例を数多く経験しております。

078-942-1021 明石土山病院「脳と心のドック」受付まで
平日 午前9:00～午後4:00（土曜 11:30まで）

診察費用 ※検査料・診察費を含む
初診の方の窓口負担金の例

1割負担 75歳以降

約 2,450 円

2割負担 70～74歳

約 4,900 円

3割負担 6～69歳

約 7,300 円

※窓口での自己負担額は所得など条件により異なります。ご自身の医療保険の負担率をご確認下さい。

3種類の検査

☑ **光トポグラフィ検査** ※この検査での費用は頂きません

脳の動きを目で見える形でグラフ化し、うつ病や認知症等に現れる特有の波形を見ます。
測定する装置のついた帽子を被って行動した際の、脳内の血流を測定します。髪や頭皮に手を加えたり、また測定中に痛みを伴うような検査ではございません。

光トポグラフィ装置 ▶



☑ **MR I 検査**

磁気を利用して頭部の断面図を撮影し、脳の腫瘍・萎縮などを画像から確認します。
エックス線を利用するレントゲンと異なり磁気を利用します。放射線被曝の心配もなく、より身体に負担も少なく済みます。開放型ですので圧迫感がなく、閉鎖空間が苦手な方でも検査して頂けます。

MR I 装置 ▶



☑ **心理テスト**

臨床心理士によるテストを行います。
機器だけではなく、医師による診察時以外での検査にも実際に臨床心理士が向かい合います。

※外来診察時に検査を行います。検査の結果につきましては後日郵送にてご送付させて頂きます。
※診察の内容により、必要がないと医師が判断した検査は行わない場合がございます。



医療法人社団 正仁会

明石土山病院
介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション
宿泊型自立訓練事業所みどり寮
共同生活援助事業所グループホームノア

基本理念

『人間愛に満ちた医療と』

愛情こもる看護・介護』

〒974-0074
兵庫県明石市魚住町清水2744-30
TEL: 078-942-1021
FAX: 078-941-1573
E-Mail: info@athp.jp

ホームページも是非ご覧下さい

● PC・タブレット・スマートフォン
<http://www.athp.jp/>
● 携帯用 (i-mode)
<http://www.athp.jp/i/>



季刊誌



令和4年夏号

当法人における新型コロナ感染者について

理事長・院長 太田 正幸

今、ご存じのとおり新型コロナのオミクロンBA5株が猛威を奮っています。当法人も例外では有りません。病院及び老人保健施設においても患者様、利用者様及び職員にも新型コロナに罹患した人達がおられます。

当法人では3回目のワクチンを患者様、利用者様及び職員全員早くに終えており、今のところどなたも亡くなられてはおりません。90才代の方々も回復されておられます。

新型コロナウイルス (Covid-19) は次々と変異種が矢継ぎ早に出てくる大変厄介なウイルスですが、オミクロン対応のワクチンもこの10月から接種可能との事ですので、国の方針にしたがって対応して行きたいと考えております、皆様方のご理解・ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスについて⑤

院長代行 宗和 将志

平素より当法人の医療、介護にご協力頂き誠にありがとうございます。8月10日現在、新型コロナウイルス第7波が猛威をふるっています。全国の新規感染者数は約2万5千人、兵庫県内の新規感染者数も1万2千人を超え、連日のように過去最多を更新しています。私自身の体感としても、これまでと比べ明らかに身近なところでの感染や濃厚接触の話聞くようになりました。全国的なニュースとなっているように、感染や濃厚接触により多くの方が出勤できなくなっており、当法人も例外ではありません。症状があっても発熱外来を受診できない、検査ができない、そもそも病院や保健所に電話が繋がらないといった話も聞いており、医療崩壊と言っても過言ではないと個人的には思っています。そのような状況下にあるため、入院患者様や入所様の面会、外出、外泊の制限については、今しばらく継続させて頂きたいと考えています。ご家族の皆様には長期間の制限となり大変申し訳ありませんが、ご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。職員の皆様につきましては、引き続き「病院、施設内に持ち込まない」を合言葉に感染対策を宜しくお願い致します。

当法人内の新型コロナウイルスの近況をご報告させていただきます。今年の2月末に明石土山病院7-3認知症病棟で初めて入院患者様の陽性者を確認しました。以降は複数の病棟で陽性者が判明し、治療、感染対策を行ってきました。8月10日現在、明石土山病院内の新型コロナウイルスクラスターは終息しています。しかし、7月末頃より老人保健施設希望2階で新たに新型コロナウイルス陽性者を確認し、現在はクラスターとして対応しています。当法人だけではありませんが、高齢者施設のクラスター報告は増えています。認知症の入所者様も多く、マスク着用など基本的な感染対策が困難なことや徘徊により感染リスクの高いエリアに入ってしまうことなど高齢者施設での感染対策の難しさを日々痛感しています。幸いなことに入所者様の多くが3回以上のワクチン接種を済ませており、多くの方が軽症で経過されています。クラスター終息に向けて、引き続き治療、感染対策に全力で対応していきたいと思います。

精神科デイケア 報告

Hygge (ヒュッゲ) プログラム
～デンマークの習慣を体験して～

精神科デイケア課長 小林 哲也

ヒュッゲとはデンマーク語で「心地がいい」「楽しい」という意味です。日本語への翻訳が難しいのですが、「心が微笑む」「ほっこり」「まったり」というニュアンスが近いです。例えるならば、秋の晴れた日に仲間と落ち葉で焚火を眺めながら焼き芋を作るような、特別ではないありふれた幸せを感じる事です。世界幸福度ランキング上位の国、デンマークの人達が大切にしている「ヒュッゲ」がデイケアメンバー様にどのような価値を生み出すのか実際行ってみました。

昨年の12月1日天満大池BBQサイトにて、炭火のぬくもりで体を温め、熱いコーヒーとマシュマロをいただきました。テーマは「心穏やかにほっこりまったり」です。美しいロケーションの中、何もしない贅沢な時間を味わっていると本当に「心が微笑む」ような感情が芽生えました。メンバー様に感想をうかがうと「自然に触れ合うと気分も良くなった」「優しい気持ちになれた」などの意見がありました。

現代人は効率性を追求しすぎるあまり、常に仕事や家事に追われて心の余裕がなくなり、幸せな出来事を幸せと感じられる感度が鈍くなりがちです。意識して何もしない時間を持つことで、自分の心の動きに向き合うことができます。精神科デイケアは外来リハビリ部門なので、原則なにかを「する」場所です。しかし今回にも「しない」ことによって、自分の心の動きに向き合う体験ができました。今後も「ヒュッゲ」を定期的に取り入れる予定です。



看護部 研修会報告



令和14年7月11日 明石土山病院会議室にて「医療機器安全管理と医薬品安全管理に関する研修会」を行いました。

医療機器安全管理についてはCT撮影時にかかる被爆量についての説明やCTを撮影する際の患者様への対応等講義していただきました。また医薬品安全管理については、医薬品添付文書の読み方について詳しく教えていただき、スマートフォン等のアプリの利用など現在における情報の収集についてもご講義いただきました。